



久保國治さん・久保恵子さん





夫が新規就農者として3年前に農業を始めた時、とても素晴らしいことをしてくれたと感激していた。自分達が口にするものをつくり出し、自然に寄り添えるような暮らしのほうが生きるうえで自分に備えておきたい価値ある時間と捉えていた。まさにコロナ時代の渦中であって、お金より何より、自身の身体が大切で、命が大事と思う中で「農業」という選択はこれからの自分達の未来を面白く、そして豊かに創造させてくれる選択肢に思えた。実際に木を植え育て始めたレモンなどは、目を離すとすぐに雑草に覆われてしまったり、猪が穴を掘ってはそこに水が溜まってしまうような状況。夫は夜型から朝型に変わり、天気や気温にもこれまで以上に敏感になっていった。そしてたまに「手伝って欲しい。いつか田舎で暮らそう」と救いを求めるようになった。現在、私は鹿児島市内で

会社勤め、夫は南さつま市で果樹栽培をしている。さて、これからのどのような暮らしを選択していくべきか、まさにそんな状況が目の前に置かれているとき、久保さんご夫婦にお話を伺う機会を得た。ハウスの横には立派な日陰用のテント、お茶、お菓子、そして溢れんばかりのみかんと、なんとも豪華な取材部屋を用意して出迎えてくれた久保國治さん、恵子さんご夫妻。久保さんの農園では、極早生(大・中・小)、ボンカン、大将季、サワーポメロが半年を通して収穫されている。今では年を重ね、一人でできていた作業も「二人で一人前よね」と苦労話を笑い合っていて微笑ましい。私と久保さんご夫婦には40歳程の年齢差はあるが、國治さんは私と同様に勤め先があり、定年まで兼業でやってきた。当時は55歳になると定年で「いよいよみかん山を元気な



うちに!」と思っていたけど、定年が延ばされたがな!」と。しばらくは恵子さん一人で講習会に参加し、周りの人にアドバイスを受け、畑で一日中作業をしていた。「みんな集まって、楽しかったですね。女の人たちもよく行っていました。我が家に一人でのより良かったです。お父さんが仕事に出ている時、私は収穫という成績発表が楽しかったです。」「僕は休みを中心にやっていたけど、子どもの行事があったり、日曜に限って雨が降ったりしっせえなあ、決まった量しかできなかったなあ。」



ある一定の収入を守るためには約10年サイクルで植え替えが検討され、次に流行る品種は何か重大な選択を迫られるタイミングが何回かあったという。最近ではハウスのポンカンを大将季(デコポンの一種)へ植え替える作業を進めてきた。

「(ハウスの足元の切り株をみて)替えて良かった!ハウスだったら育ちが早い。5年でこれよ。以前育てていたものの値段が下がっていき、今はデコ(ポン)が軌道に乗ってきた。1kgが500〜600円程。だから品種って大事。こういう新たな品種があった、僕たちはずっと果樹が楽しくできていく」。孫たちもデコが大好き!手で剥けて、種も少ないから食べやすい。糖度も高いし、ジュシーだし。一番果樹栽培の中で安定している大将季は、鹿児島だけの品種なんですよ」。ご夫婦で新しい品種に備えた講習に出かけたり、年に一度あった視察研修ツアーも

思い出深いと語ってくれた。「施設をみんなで訪ねて学んでも、なかなかどうやっていいかわからない。真似してやってみてもその通りにはうまくいかない。指導があつて、先輩方がいてくれるからやってこれた。だけど農協側も人が足りなくなっているのだと思う。指導する人も少なくなつたよね。指導者がいないと発展しないですよ。そのような人たちがいないと我々も潰れてしまう。だから集まつたり、誰かに聞きに出かけることが大切だった」。今も語り合える、相談ののつてくれる仲間がいるから楽しいのよね。」

今では機械化も進み、作業しやすい土地で続けている人が農業者として継続しているとも言える。「販売もネットでできればいいけど、私たちができないから、いっぱいできた時は、農協がちゃんと取ってくれるんです」。彼らにとつてイチから

販売先を探すことはとても困難なこと、そうした状況を救ってくれる関係先を築いてきたのもまた、彼らが続けてこれた理由だと思えた。「当時はあちこちで鹿児島の人たちは農業してたけど、特定の場所に行かないと農業というものはなかなか見かけなくなつた」。年を重ねていくうちに周りの様子もすつかり変わつてしまつたようで、戦後すぐ開拓されたこの土地も、山ひとつの側面が柑橘畑でいっぱい風景だった、いつしか賑やかだった集落も人が減り、ここ20年のうちに夢にも思わなかつた風景が広がっているという。「隣のおじさんが85歳くらいで、今年が最後と言っていた。夏も作業をしている様子を見ていたし、気になつてしまふ先輩。でも、そういう人がいるからまだきばらんなら」と。「収穫は楽しい。夏場の草刈りはきつい。仕事はゆつくり、疲れるのも嫌だから、いい

ペースでやらせてもらっている。やっぱり歳をとると血の巡りが悪くなるよ。思い通りに行かない。歳ってほんと捨てていきたい!『もうやめじゃ!』って言いながらやってきているよ。一人じゃ無理で、作業は分け合いっこ、半分ずつ。二人で一人前だがね。」

私たち夫婦のこれからのヒントを、あのたわわに実る大将季のようにたくさんもらった。

「頑張っている旦那のところへお茶を持って行ってあげるだけでも喜ぶと思うよ」と農家の嫁として未熟な私に久保さんご夫婦は優しく語りかけてくれた。やっぱり農業って想像以上に大変で、地球と共に生きる実感のもてる楽しい仕事になり得るもの。二人の話を聞いているうちに、まだまだ先の長い道のりと、夫婦として農業をやる楽しみ方を教わつたような気がした。

**Writer : 桑原 優佳**

1988年鹿児島生まれ。株式会社BAGNに所属し、Uターン後は冠嶽芸術文化村でえんたくの一員として活動中。夫は新規就農者3年生として南さつま市坊津町秋目で桑原果樹園を設立。祖父母の柑橘を引き継ぎながら、新たにレモン700本を育成している。

(2022年11月取材)

経営モデルコース

○ = 4割育成中 ● = 育成中

CASE 2

1ターン就農／就農5年

CASE 1

親元就農／家族経営(妻が専従者)／就農約30年

収入

品目	面積(a)	売上高(円)
加温大将季	10	2,000,000
● 無加温大将季	25	0
● ハウスボンカン	5	0
サワーポメロ	10	400,000
● 温州みかん	15	0
ぶどう	10	1,400,000
合計	75	3,800,000

収入

品目	面積(a)	売上高(円)
○ 加温大将季	130	9,000,000
無加温大将季	35	5,700,000
ハウスボンカン	15	900,000
サワーポメロ	130	4,000,000
温州みかん	15	0
合計	225	19,600,000

経費

内訳	費用(円)
肥料代	200,000
農薬代	300,000
動力光熱費	800,000
諸材料費(ハウス資材など)	350,000
荷造運賃手数料	170,000
人件費(繁忙期雇用分)	370,000
減価償却	90,000
修繕費	800,000
租税公課	50,000
種苗費	100,000
農具費	200,000
作業用衣料費	90,000
農業共済掛金	70,000
賃借料(ハウス・倉庫・農地)	50,000
その他雑費	260,000
合計	3,200,000

経費

内訳	費用(円)
肥料代	500,000
農薬代	500,000
動力光熱費	2,300,000
諸材料費(ハウス資材など)	1,250,000
荷造運賃手数料	3,800,000
人件費(1名専従者+繁忙期雇用分)	1,300,000
減価償却	1,000,000
修繕費	1,700,000
租税公課	650,000
種苗費	200,000
農具費	200,000
作業用衣料費	100,000
農業共済掛金	300,000
その他雑費	1,200,000
合計	15,000,000

機械

機種	台数(台)
チッパー	1
草払い機	1
運搬車	1
その他	

機械

機種	台数(台)
スピードプレイヤー(共同で所有)	1
草払い機	1
運搬車	1
その他	

収入-支出 600,000円

収入-支出 4,600,000円

就農までの準備

01

地域の方々との関係づくり

農業は地域との結びつきが強いので、環境保全会（地域の農地の管理をする組織）や、JAの果樹部会、青年部に参加するなど、コミュニティに入り、コミュニケーションをとっていくことが重要です。

地元生産者との関係づくりが、良い園地との出会いにつながることもあります。

いちき串木野市は果樹の生産地、周囲には栽培技術に長けた先輩生産者がいます。JAさつま日置の選果場もあり、そのような人たちから情報をもらえることもあり、よい果樹をつくる技術を身につけることにつながります。

02

5反以上の園地の準備

果樹栽培の場合、新植のみでスタートすると木々が成熟するまで数年は収入が見込めません。収入の見込める園地を探すことが重要です。また、栽培条件のよい園地（水・土壌・傾斜・日当たり）など様々な条件を見極める必要があります。

—

1反

1町

10a(1,000m²) / 1ha(10,000m²)

—

03

施設、資材の準備

経営を安定させるには、施設栽培（ハウス等）の導入も検討が必要となります。収穫してから出荷までの貯蔵や、農機具を保管するための倉庫も必要となります。

04

販路を見越した営農計画づくり

JAの選果場を通して販売するのか、個人販売するのかで、営農計画も変わってきます。どちらにも一長一短があるので、特性を理解して計画を立てることが重要となります。



＼こんな制度もあります！／

「新規就農者育成総合対策」



農林水産省が実施する、新規就農しやすい環境を作るための政策で、教育プログラムや専門家のアドバイス、資金支援、農地の提供など、さまざまな支援内容があります。これにより、新規就農者は必要な知識や資金を得ながら農業を始めることができます。また、情報発信やマッチングの支援も行われ、新しい仲間とのつながりも生まれます。

一般的に、農業を志してすぐに個人農家として独立する人は少なく、研修機関や農事法人などで勉強や実習を積んでから独立する人が多いので、このような制度を上手に利用して農業を始めましょう！
気になることがあったらお気軽にいちき串木野市役所農政課までお問い合わせください！

いちき串木野市役所農政課 TEL0996-21-5121